



富士山五合目で、登山客に啓発グッズを配る
富士河口湖町のドッジボール団体のみなさん

富士山憲章制定10周年を迎え さまざまなキャンペーンを実施

日本の象徴である富士山の豊かな自然と歴史文化を守り、その恵みを後世に引き継いでいくため、山梨・静岡両県共同で平成10年11月18日に「富士山憲章」を制定しました。

制定10周年を迎える今年、登山や観光で富士山を訪れる全国の方々に「富士山憲章」を周知し、富士山の環境保全などへの理解と協力、世界文化遺産登録の推進を呼びかけるさまざまなキャンペーンを行っています。

富士山五合目では、7月下旬を中心に延べ9日間ボランティアの方々が登山客などに啓発グッズなどを手渡し、富士山の環境保全などを呼びかけました。また、静岡県や地元市町村などと共同で、多くの観光客が集まる富士山麓7カ所の道の駅で「ぐるり富士山 道の駅キャンペーン」を、さらに、富士山頂において「山頂キャンペーン」を実施しました。

なお、11月18日には、「富士山憲章」制定10周年を記念し、山梨県側で記念フォーラムを開催し、「富士山憲章」の全国へのより一層の普及定着を図っていきます。



富士山頂で富士山憲章をPR



山梨の立地メリットをPRした企業立地セミナー

新たなビジネス展開は山梨で! 東京多摩地区で企業立地セミナーを開催

県では、県内への企業誘致を図るため、多摩地区に拠点を置く企業を対象に「チャレンジ山梨!企業立地セミナー」を7月22日に東京都八王子市で開催し、企業の経営者など約150名の方が参加しました。セミナーでは、中央自動車道に加え、圏央道が開通したことで山梨県を取り巻く交通ネットワークが着実に広がっていること、機械電子産業が集積していることなど、山梨に進出するメリットをアピールしました。

今後も、県内の工場用地や進出企業への支援措置などを紹介しながら、企業訪問などを行い、誘致活動を進めていきます。



出品されたワインの味・香りを確かめる審査員

「国産ワインコンクール2008」で 県産ワイン6点が金賞を受賞

国内で栽培されたブドウを100%使用したワインを対象にした「国産ワインコンクール2008」審査会が、7月23日から3日間にわたり行われました。国産ワインの品質や知名度の向上を図ることを目的に行われるこのコンクールは、今年で6回目を迎え、23道府県105のワイナリーから過去最多の622点が出品されました。

審査では、外国人審査員を含む24名が、出品ワインの味や香りなどを確かめました。8月4日には、審査結果が発表され、269点のワインが入賞しました。最高賞の金賞には過去最多の14点が選ばれ、そのうち山梨県産ワインは、昨年より1点多い6点が受賞しました。また、8月30日には表彰式、公開テイスティングが開催され、会場では、約600名の方が、金・銀・銅賞を受賞した約200種類の国産ワインを堪能していました。

今後も、同コンクールは、ワイナリーだけでなく、ワインの原料となるブドウの栽培に取り組む農家を応援する役割も果たしていきます。



金賞に輝いたワイン14点



包括的連携協定を結び、握手をする
ローソンの社長と横内知事

県と株式会社ローソンが 包括的連携協定を締結

山梨県と株式会社ローソンは、県内の活性化を図ることを目的に、包括的連携協定を締結しました。

この協定には、安全・安心の確保、地産地消や、県産品の販路拡大などで、両者が協力していくことが盛り込まれています。

さっそくこの協定締結に合わせ、災害発生時の生活物資調達に関する協定が締結され、県産食材を使用した弁当、銘菓などを販売する「山梨フェア」もローソン中部エリア9県の1162店舗において開催されました。

